

第4章

パラリンピック編 — 共生社会の実現に向けて —

2021年8月24日(火)、障がい者を対象にしたもう一つのオリンピック「パラリンピック」が東京で開幕した。人体を最大限に生かして戦うパラアスリート。彼らが魅せる輝きは私たちに多くの感動を与え、同時に誰もが持つ可能性を大きく示した。

パラリンピックが示す4つの価値「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」。

これらは、私たちに多くの「気付き」を与え、精神を大きくプラスに導いた。そして互いの個性や可能性を認め尊重し合う社会「共生社会」の実現を促進させた。

様々な期待や希望をもたらすパラリンピックへの興味関心を高めるため、そしてその先の「共生社会」実現に向けたこれまでの活動をここに記録する。

パラリンピック聖火リレーとは

共生社会の実現に向けて

パラリンピック聖火は、パラリンピック発祥の地であるイギリスのストック・マンデビルを含めて、複数の場所で採火され、開催都市で一つの火になる。

東京2020パラリンピック聖火リレーでは、オリンピックの熱気と興奮をつなぎ、人々にパラリンピックの精神と価値を伝えるべく、オリンピック終了後の2021年8月12日(木)からストック・マンデビルと各都道府県で採火が行われた。全国で採火された48の火は開催都市東京に集まるとパラリンピック開会式に向けリレーで繋がれた。



画像提供：Tokyo 2020



こうしてパラリンピック聖火は完成する

1st：日本各地に熱意の火が灯る

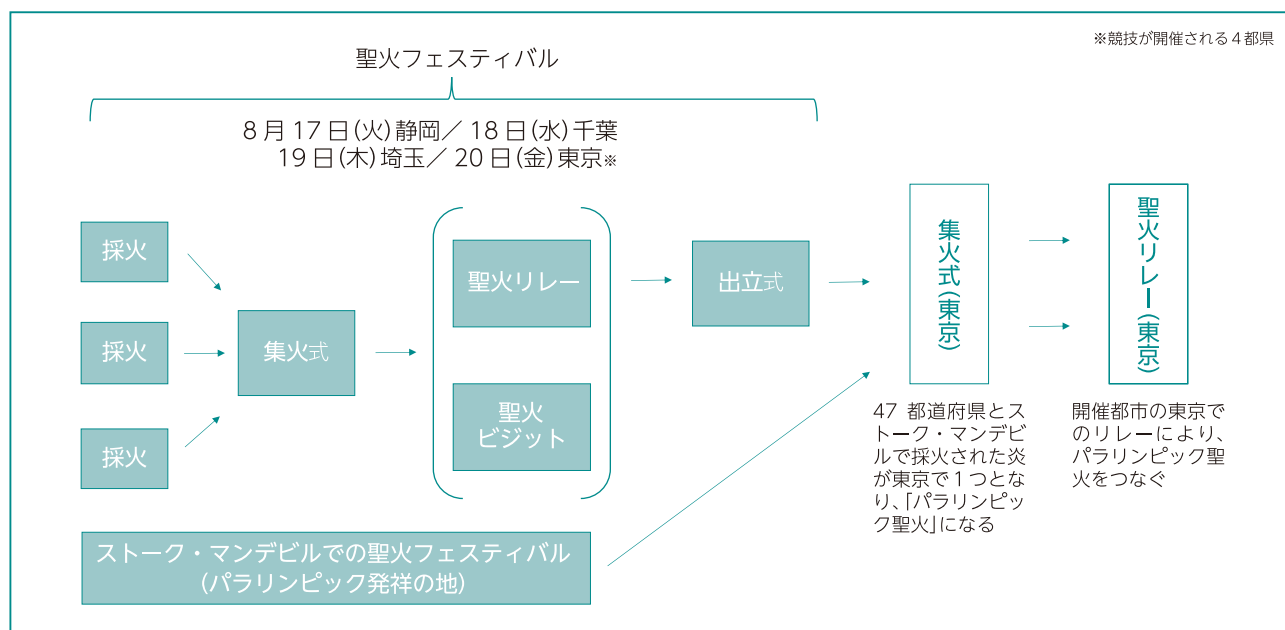
パラリンピックを応援する人々の「熱意」は、日本各地やイギリスのストック・マンデビルで行われる採火式で「炎」にその姿を変え、さまざまな催しとともに、東京2020パラリンピックを盛り上げた。日本各地で行われた採火イベントや、聖火ビジットは、総称して「聖火フェスティバル」と呼ばれ、各地を出立して東京へ向けて送り出された。

2nd：競技開催都市を、光り輝く炎が駆け抜ける

埼玉、千葉、静岡の競技開催県では、それぞれの県にて、採火式や聖火ビジットと聖火リレーも開催。3人1組となったパラリンピック聖火ランナーが駆け巡った後、それぞれの県から東京へ向けて出立。東京でも同様に採火を行い聖火リレーを実施した。

3rd：パラリンピックを応援するすべての熱意が一つに

日本各地で採火された炎と、競技開催都県(埼玉県・千葉県・静岡県・東京都)で採火され・出立した炎、そしてストック・マンデビルからの炎とともに、パラリンピックを応援するすべての人の熱意は東京で一つとなり(集火)、東京2020パラリンピック聖火が誕生。そして開会に向けて、東京で聖火リレーが実施された。



東京 2020 パラリンピック聖火リレーコンセプト

「新たな出会いから生まれる光を集めて、みんなが調和し、活かし合う社会を照らし出そう。」という想いを表現。また、パラリンピック聖火リレーを通じて、多様な、そして社会の中で誰かの光や支えとなっている光(人)が集まり、出会うことで、共生社会を照らし出そうという想いが込められている。

Share Your Light

あなたは、きっと、誰かの光だ。

東京 2020 パラリンピック聖火リレーエンブレム



大会エンブレムを構成する3つの四角形を聖火の炎と見立て、炎のダイナミックな動きを表現。また日本らしさを表現するデザインモチーフとして、「拭きぼかし」という浮世絵の技法も用いている。

色彩は、東京2020パラリンピック聖火らしい炎となるよう、日本伝統色を用い、多様な個性の輝きを表現する「黄金(こがね)」に「黄土(おうど)」を組み合わせ、人々に日本らしい祝祭感と期待感を印象付けた。

パラリンピック聖火用語

採火

東京2020パラリンピック聖火リレーのための炎の誕生のこと

聖火ビジット

採火された火が病院や学校などの施設を訪問すること

出立

各地で生まれた炎が、東京で一つの炎として集火されるために、東京に向けて出発すること

聖火フェスティバル

日本各地で行われる東京2020パラリンピックのための採火イベントの総称

パラリンピック聖火リレー in 静岡県

競技開催会場である静岡県では聖火リレーが行われ、127名のランナーが3市(御前崎市、菊川市、浜松市)を走行した。

また公共施設や福祉施設を訪ねる聖火ビジットが県内10町で行われ、オリンピックとパラリンピックの2つの聖火イベントを通して、東京2020大会の聖火が静岡県の全市町を巡った。

東京へ送り出す出立式は、共生社会ホストタウンの取り組みを進める浜松市で実施。聖火フェスティバル全体を通じて、静岡県全体で共生社会の実現への取り組みを積極的に発信した。

静岡県のスケジュール

- 2021年8月17日(火) ①採火式…県内35市町が、独自の方法で共生社会の実現への想いを込めた火をおこす。
- ②集火式(日本平夢テラス(静岡市))…県内35市町から運ばれた火を一つに集火する。
- ③聖火リレー…静岡の火を御前崎市・菊川市・浜松市と県内3市をリレーでつなぐ。
- ④出立式(四ツ池公園陸上競技場 浜松市)…聖火リレーの最終到着地となる四ツ池公園において、静岡の火を開催都市東京都に送り出すためのセレモニーを行う。



画像提供: Tokyo 2020



画像提供: Tokyo 2020



画像提供: Tokyo 2020



画像提供: Tokyo 2020

パラリンピック聖火フェスティバル御殿場市採火式

東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル御殿場市採火式

2021年8月17日(火)の朝、静岡県立御殿場特別支援学校で「東京2020パラリンピック聖火フェスティバル御殿場市採火式」を実施。当日は生憎の雨のため、会場をグラウンドから昇降口前のバス停に変更し開催した。また当初、御殿場特別支援学校の児童生徒や先生など一般観覧者が観覧できるよう計画していたが、県東部に新型コロナウイルス感染症拡大による「まん延防止等重点措置」が発布され計画を変更。御殿場市オリンピック・パラリンピック推進協議会委員、学校関係者、代表者及びその保護者に参加者を制限し、約100人で開催した。

7時30分、司会進行を務める富士山GOGOエフエムの芹澤ゆみかさんにより開式。御殿場市長挨拶の後、市内小中学校代表者及び御殿場特別支援学校各部代表者の19名が各学校で考えた共生社会の実現に向けた想いを発表。子どもたちの想いが火に込められると、その火は市長と御殿場特別支援学校高等部3年の鈴木龍波さんによりランタンに移された。灯された火は19名によるランタンリレーによりそれぞれの想いが共有され、ついに「御殿場希望の火」が誕生。8時00分、その火は観覧者に見届けられながら集火式が行われる静岡市へと出発した。



発表



発表



採火



ランタンリレー

パラリンピックが目指す共生社会の実現に向けた火をおこすために

■ 静岡県立御殿場特別支援学校での開催

採火式を多様性が認められ調和のとれた社会を目指すきっかけとし、共生社会の実現に向け市内外へ強い発信を行っていくため、静岡県立御殿場特別支援学校を会場とした。

■ 1964年東京オリンピック大会聖火台のレプリカを使用

東京2020パラリンピック聖火フェスティバル御殿場市採火式で使用した聖火台は1964年東京オリンピック大会で使用された聖火台のレプリカで、制作者の義弟である渡邊次郎さん(東山区在住)が譲り受けたもの。実物の6分の1スケール。



聖火台レプリカ

子どもたちの想い。共生社会の実現に向けて

市内の全小中学校16校と県立御殿場特別支援学校の小学部・中等部・高等部の児童生徒が、それぞれ、パラリンピックを目指す「共生社会の実現に向けた想い」を考えてスローガンやキャッチフレーズとしてまとめ、メッセージボードを制作。採火式には、各学校の代表児童生徒が参加し、各学校の

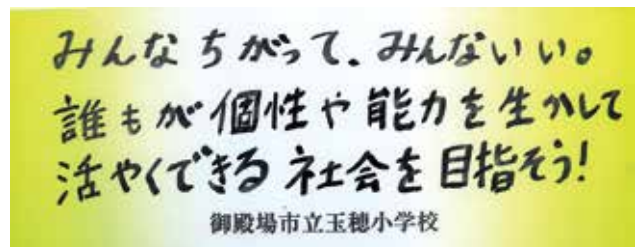
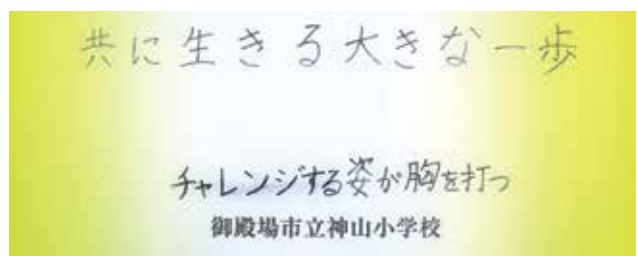
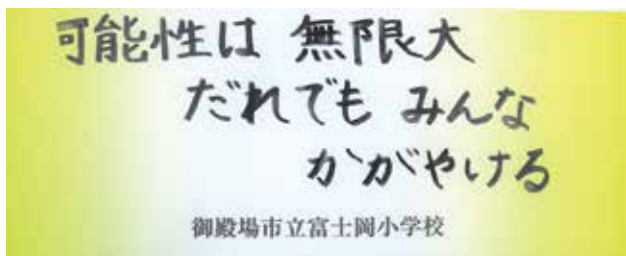
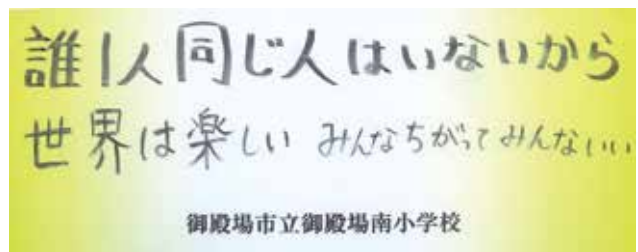
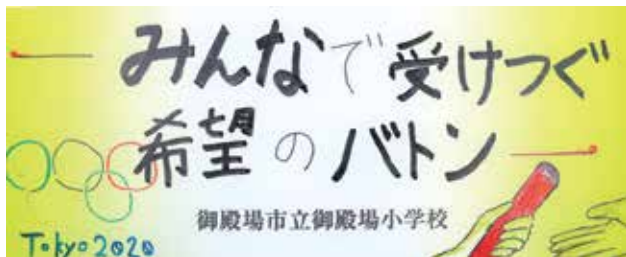
想いを発表、聖火台にメッセージボードを設置し、炎に想いを込めて「御殿場希望の火」を採火した。

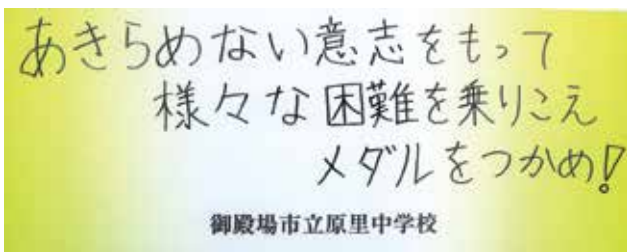
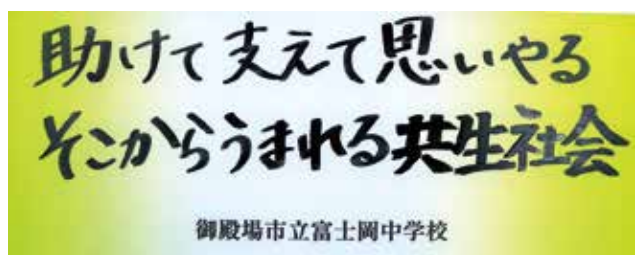
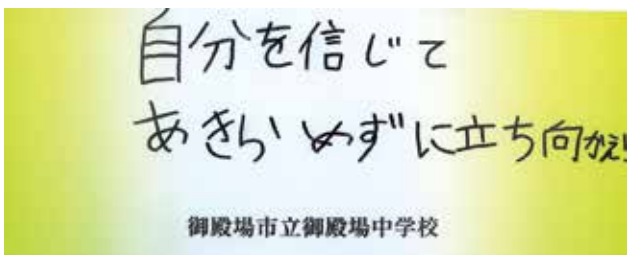
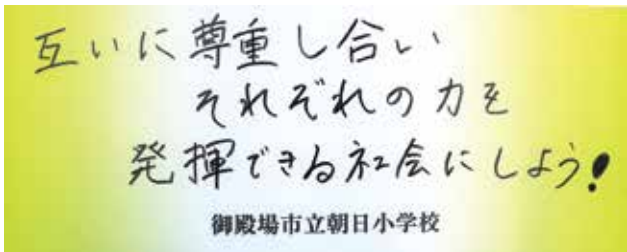
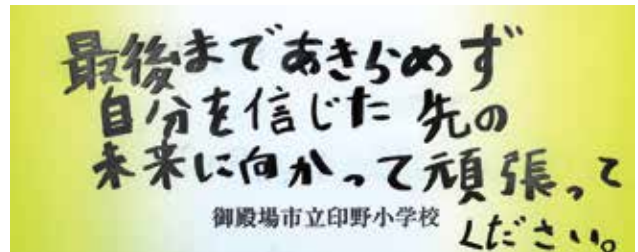
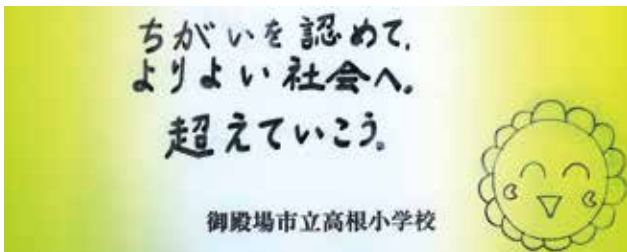
東京2020大会を目指す「一人ひとりが互いを認め合うこと（多様性と調和）」に沿った素晴らしいメッセージが集まった。



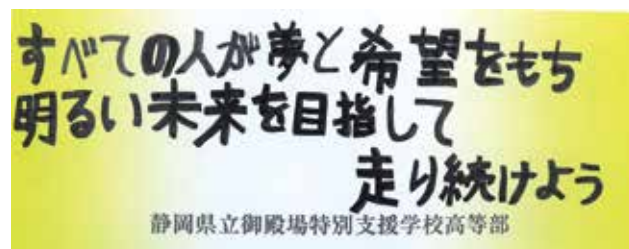
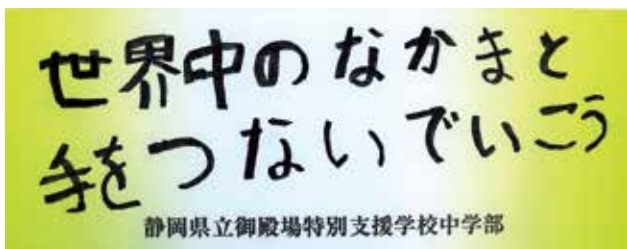
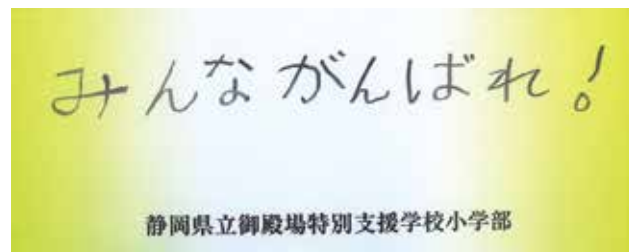
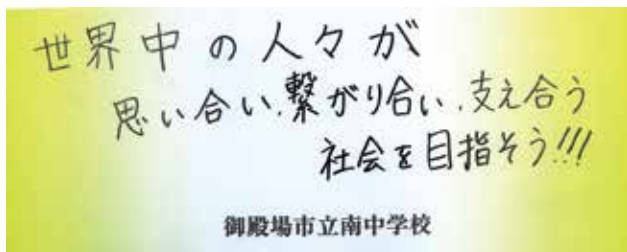
代表児童生徒と御殿場希望の火

子どもたちが考えた「共生社会の実現に向けた」メッセージ





聖火台に設置したメッセージボード



子どもたちの想いを込めた「御殿場希望の火」

『御殿場希望の火』が『東京2020パラリンピック聖火』に

御殿場市採火式と同日、静岡市にある「日本平夢テラス」で集火式（35市町が独自の方法で採火した火を一つにする式）が行われた。それぞれの市町代表者が円になり、中央にランタンを

掲げると35の火とそれに込められた想いが一つになり、静岡県の「東京2020パラリンピック聖火」が誕生した。



パラリンピックの開催に向けて

東京 2020 パラリンピック開催、そして共生社会の実現に向けて

静岡県立御殿場特別支援学校や富士岡地区、御殿場市スポーツ推進委員会を中心に、東京 2020 パラリンピックに向けた機運醸成や共生社会の実現に向けた取り組みが市内各地で行われた。

御殿場特別支援学校での取り組み

静岡県立御殿場特別支援学校では、東京2020オリンピック・パラリンピックの競技ピクトグラムクイズの制作・展示や、日本とホストタウン相手国であるイタリアをはじめとした出場国の国旗をあしらったストラップの制作、各国料理の給食等、大会に向けた様々な取り組みを行い、昇降口や廊下に飾られた制作物が学校内を彩り、東京2020大会に向けた機運を

盛り上げた。

また、東京2020パラリンピック聖火フェスティバル御殿場市採火式が同校を会場に行われることから、正門付近のフェンスには生徒たちの手によってパラリンピック聖火リレー横断幕が掲げられた。



市内でのパラスポーツ交流の取り組み

市内では、「パラスポーツを知る」「共生社会への理解を深める」といった目的で、御殿場市身体障害者福祉会主催のスポーツ大会が開催されているほか、市内各地でパラスポーツによる交流会や体験会が行われている。

特に、障がいの有無にかかわらず楽しめるスポーツ「ボッチャ」の体験会が多く行われていて、市スポーツ推進委員指導のもと、市内の小学校などで多くの市民がパラスポーツを楽しんでいる。

中でも大坂区の方々と県立御殿場特別支援学校との交流は盛んに行われている。富士岡中学校での交流会では両校の生徒がコミュニケーションを図りながらチームで協力し合い得点を狙うなど、チームプレーで盛り上がり、笑顔があふれた。交流を終えた富士岡中の生徒たちは「障がいを持った子とあまり関わりがなかったけど交流できて楽しかった」と感想を述べるなど、お互いにとっても貴重な経験や理解を深める、共生社会に向けた素晴らしい取り組みとなっている。

2017年 8月12日

「御殿場市障害者スポーツ大会」

2019年 8月31日

「御殿場市障害者スポーツ大会」

2020年

1月23日 ボッチャ交流会
(御殿場小学校と市スポーツ推進委員)

9月30日 ボッチャ交流会
(御殿場特別支援学校と大坂区)

10月8日 ボッチャ交流会
(御殿場特別支援学校と富士岡中学校)

10月21日 ボッチャ交流会
(御殿場市特別支援学校と大坂区)

11月25日 ボッチャ交流会
(御殿場特別支援学校と富士岡中学校)

12月10日 ボッチャ交流会
(御殿場小学校と市スポーツ推進委員)

2021年

7月7日 ボッチャ交流会
(御殿場特別支援学校と大坂区)

10月27日 ボッチャ交流会
(御殿場特別支援学校と大坂区)



パラアスリートとの交流

世界最高峰の技と人とのふれあい

「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」パラリンピックの創始者ルードウィッヒ・グットマン博士の言葉だ。何かを理由にして挑戦をあきらめない。視線は常に前を向く。それはなんと強い生き方だろう。そんな生き方を体現

してきたパラアスリートとの交流を、これまで子どもたちを中心に行ってきた。常人離れしたパラアスリートの肉体や技術、彼らの生き方や精神は市民に多くの感動をもたらし、障がいに対する意識を大きく変えた。

中学校での夢創造教育講演会

■西中学校

ゴールボール・浦田理恵さん

2018年12月6日(木)、北京パラリンピックから3大会連続出場し、ロンドンパラリンピック「ゴールボール」で金メダルを獲得した浦田理恵さんによる講演会が西中学校で開かれた。メダリストによるゴールボール体験会や講演を通して、共生社会の実現や大きな夢の育み、将来に向けて励みきっかけづくりとなった。浦田氏は東京2020パラリンピックに出場し銅メダル獲得に貢献。また日本選手団の副主将も務めた。2021年12月には代表からの引退を表明し、見事有終の美を飾った。



■南中学校

車いすバスケットボール・三宅克己さん

2019年11月1日(金)、1996年のアトランタパラリンピックから3大会連続で出場した車いすバスケットボール元日本代表の三宅克己さんをゲストに招いて南中学校で交流会が開かれた。講演で三宅さんは生徒たちに、障がいがあってもスポーツを通し個性を持って生きている人たちを紹介。「人生でどんな困難や壁にあたって、自分を信じてほしい」と伝えた。競技体験で、生徒たちは車いすの乗り方の注意点や操作のこつを聞き、一人ずつ走行。代表生徒はミニゲームに挑戦し、思うように車いすを動かさず苦勞しながら、懸命にゴールを狙った。生徒たちは「来年のパラリンピックが楽しみ」「車いすバスケの選手ってすごい」と感想を述べ、パラリンピックへの関心を深める機会となった。



500日前イベント 市体育館リニューアルオープン記念 「東京2020大会までにもっとよく知ろう パラスポーツと障がいのこと」

東京2020パラリンピック開催まで500日となった2019年4月14日(日)、改修工事が完了した御殿場市体育館のリニューアルオープンに合わせた記念イベント「東京2020大会までにもっとよく知ろう パラスポーツと障がいのこと」を開催した。

イベントでは、アテネパラリンピック射撃日本代表の鈴木ひとみ氏による講演会やブラインドサッカーとアンブティ

サッカーの教室、ユニバーサル卓球の競技体験会を行いパラリンピックに向けた機運を高めた。また、県立御殿場特別支援学校の生徒たちも参加し、一緒にスポーツを楽しむことで、パラリンピック500日前を契機に共生社会実現に向けた取り組みとなった。

■第1部：鈴木ひとみ氏講演会(アテネパラリンピック射撃日本代表)



■第2部：パラスポーツ体験会(ブラインドサッカー、アンブティサッカー、ユニバーサル卓球)



■会場の様子



山本篤選手トークショー&陸上教室

東京2020大会開幕まで1年を切った2019年8月4日(日)、北京パラリンピックから3大会連続で日本代表として出場し、リオ大会で2つのメダルを獲得した、陸上競技走り幅跳びの銀メダリスト・山本篤選手による講演会と陸上教室を開催した。

講演会ではメダル獲得までの軌跡を収録した映像を紹介し、自身の経験を踏まえて「一つの目標を持って邁進してほしい。その取り組みを楽しみと思えるようになってほしい」と子どもたちにエールを送った。

陸上教室では、山本選手が実際に行うウォーミングアップや、正面を向いた姿勢でかかとをつけない走り方をレクチャーし、最後には山本選手と代表の子との競争を行った。参加した子どもたちは山本選手の義足に興味津々。貴重なメダルを触らせてもらい、走り方のレクチャーを受けるなど、山本選手との交流を図ることでパラアスリートへの興味を高め、「絶対にパラリンピック見るよ」と目を輝かせた。

山本選手は東京2020パラリンピック陸上競技走り幅跳びに出場し、自己ベストを更新するジャンプで4位に入賞した。



パラスポーツ

トップアスリートを間近に

2017年4月、御殿場市馬術・スポーツセンター（御殿場市仁杉）を東京2020パラリンピック競技大会に向けた馬術競技の強化拠点施設とすることが決まり、日本馬術連盟副会長の嘉納寛治氏、2016年ロンドンパラリンピック競技大会馬術日本代表の浅川信正氏が、御殿場市長を訪問した。市馬術・スポーツセンターは2008年からオリンピック馬術競技におけるナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点（NTC）に指定されており、トップアスリートの合宿に適した設備と合宿の実績があることや競技者の拠点多い関東圏からの距離が近いことなどから選ばれた。

市では、選手の受け入れに向け指定管理者と協力し、施設のバリアフリー化を推進。車いすが移動しやすいようコンクリート舗装による動線づくり、車いす用観覧スペースの設置、各所建物へのスロープ設置などの整備を実施し、大会直前の2020年には車いす使用者でも使いやすい多目的トイレをスポーツ振興くじ助成を活用して新たに設置した。多目的トイ

レはおむつ替えシートや更衣スペースが設置されたことから、障がい者の利用だけではなく、観戦に訪れた親子連れなども利用が可能。今後も、障がい者馬術競技の日本代表の強化合宿が予定されるなど、パラリンピック馬術競技の聖地として、益々の利用が期待される。



御殿場市馬術・スポーツセンター

バリアフリー化



東京 2020 パラリンピック競技大会での入賞を目指して

初めての合宿は2021年3月、日本障がい者乗馬協会の主催で東京2020パラリンピック競技大会でのメダル獲得及びパリ2024パラリンピック競技大会を目指す次世代の強化が目的で行われた。参加した選手は、国内トップの11人。2回目の合宿は、同年8月、東京2020大会直前に行われ、最終的に日本代表に選ばれた4選手が参加した。

3月の合宿では、静岡県を拠点に活動している東京2020大会日本代表の稲葉将選手（静岡乗馬クラブ所属）、親族が乗馬クラブでインストラクターを務め、自身も乗馬をする女優の佐藤藍子氏、御殿場市長の3者による公開対談が市馬術・スポーツセンター貴賓棟、貴賓室にて行われた。この対談は東京2020大会に向けた機運醸成の一環として行われ、馬の魅力、馬術競技の奥深さをそれぞれの立場から存分に語り合う場と

なった。また、市民による合宿見学会が行われ、静岡県立御殿場特別支援学校の生徒、保護者のほか、御殿場市スポーツ推進審議会委員約30名が、肢体不自由などのハンデを抱えながらも人馬一体となった演技を披露する選手の様子を興味深く見学し、パラリンピックスポーツ、障がい者馬術への理解を深める機会となった。

8月の直前合宿は、コロナ禍に加え、大会直前ということもあり非公開で行われたが、市民を代表して市長が選手団を訪問し、激励した。合宿を終えた4選手は8月26日（木）から30日（月）にかけて開催された東京2020パラリンピック競技大会に出場、宮路満英選手が個人で2つの入賞、稲葉将選手が団体戦で本大会日本人最高の70%超の得点を獲得した。



パラ馬術国内強化合宿 ©JRAD



パラ馬術国内強化合宿 ©JRAD



パラ馬術国内強化合宿 ©JRAD



3者による公開対談(左から稲葉将選手、佐藤藍子氏、御殿場市長)



合宿の市民見学会 ©JRAD



大会直前合宿における御殿場市長激励 ©JRAD

ナショナルトレーニングセンターの競技別強化拠点とは

ナショナルトレーニングセンターとは、国際競技力の向上のため、トップレベルの競技者の育成・強化、タレント発掘の中心的な拠点として位置づけられている施設。東京都北区に中核拠点としてナショナルトレーニングセンターが整備されているが、中核拠点では強化活動(特に競技トレーニング)

が困難な冬季、海洋・水辺系・屋外系のオリンピック競技、高地トレーニング及びパラリンピック競技のトレーニング環境の充実を図るため、全国の強化に適した既存施設がナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点として指定されている。